資料４

行政事業レビューにおける指摘

最初に示された論点

・長期的に事業規模が大きく、執行方法の改善の余地が大きい。

・一者応札になっていることを踏まえ、競争性の確保のため、仕様要件の内容の見直し等の改善を図るべき

・参加者１人当たり自己負担の引き上げについて検討を行うべき。

・事業の目的を達成するために十分な効果を上げているものになっているか。

〇委員からの指摘

・船に関する仕様書が細かすぎる。競争入札を標ぼうしながら、事実上、一社しか入札できないようにしているのではないか。

・ずっと一者応札できていると、外観上、財団法人のためにやっているのではないかと見えてくる。

・船を使用しなくとも、各国間を飛行機で移動し、研修施設等を利用することにより、経費をかけずに同様の効果をあげられるのではないか。

・船を使用することにつき、コストに見合った効果があることを示すべき。

・参加青年以外の国民にとって本事業はどのようなメリットがあるのか示すべき。

・ＯＢ会組織からの寄付で実施することはできないのか。

・事業開始から 50 年以上経過し、事業の意義・効果は変わっているはず。スキームの見直しをすべき。

・事業の効果はできるだけ定量的に示し、それが難しい場合は、定性的に示す工夫をすべき。（効果の測定は、事業に参加した者とそうでない者を比較した差分で測るべきという議論もあった）